

子供たちのために

副校長 安田 明子

2月を迎えました。朝晩の寒さは厳しいものの、日毎に陽の光も強さを増し、春の兆しが少しずつ此処彼処で感じられ、梅の見頃が待たれる季節です。二十四節気の第一である「立春」は、何か新たな佳いことが始まりそうな予感がします。明日からいよいよ春に向かうのだ、という喜びに満ちた気持ち。今年の節分は2月4日、「福はうち。」です。

学校では今年度の教育活動を振り返り、年度末、そして来年度の準備を進めるという慌ただしい時期がやってきました。そんな忙しい中でも、いろいろなところで「ありがとう」「ありがとうございます。」の言葉が交わされる、心温まるひとときがあります。

例えば、臨川小学校では、図書委員が休み時間に図書館で読み聞かせをしています。5、6年生が「10月の読書月間に行った読み聞かせが、低中学年の子たちに好評だったから」と、自主的に取り組んでいるそうです。思いやりの心に感動しました。読み聞かせという活動は、耳から入ってくる言葉の快さから、物語の世界にどっぷり浸ることができ、読み手と聞き手がつながる安心感も培うことができるそうです。私自身も幼稚園の先生が読み聞かせてくれた「しろいうさぎとくろいうさぎ」のことを、50年以上たった今でもありありと思い出すことができます。小学校2年生の担任の先生は斎藤隆介の「八郎」を、4年生の時の先生は宮沢賢治の「風の又三郎」を読み聞かせてくれました。本の内容はもとより、子供たちに読書の楽しさを教えてくださろうとした先生方の心の温かさが忘れられません。読書習慣を身に付けさせることは、大人が子供にプレゼントできることの一つだと思います。ありがたい子供時代の思い出です。

保護者の皆様や地域の皆様には、学校評価アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。皆様から頂いた結果をもとに1月21日に学校運営協議会を開催し、報告申し上げました。この後、教員がつけた自己評価と、学校関係者評価をまとめて区に提出する予定です。皆様からの貴重なご意見をふまえて、来年度の教育課程に生かし、さらなる教育活動の充実を図ってまいります。引き続き感染症の予防対策が継続される中、教育活動の実施にあたっては、渋谷区立園学校版感染症予防ガイドラインにのっとり、制限の中での実践を積み重ねてまいります。今年度も予防対策を講じた中での学校行事、授業公開の機会の縮小等という状況にあっては、保護者の皆様においては、ご心配や表に出されないご要望もさぞかし多かったことと拝察いたします。しかしその中であっても、臨川小学校へのご協力を惜しまずいただきましたことに心から御礼申し上げます。

臨川小学校は、コミュニティ・スクールとして、学校と保護者、地域の皆様が協働しながら学校づくりを進めています。様々な面でご協力いただき、ご意見いただいております学校運営協議会の方々、地区委員会、地区体育会、町会、商店会、そしてPTAの皆様と、多くの方が臨川小学校を愛し、子供たちの学びと成長を支えてくださっています。子供たちのために、という一点で、労を惜しまず協力してくださる方との交流を通し、感動することも度々でした。

4月に転任してきた時は、地域のことも保護者の皆様のこと何もわからなかった私ですが、様々な機会を通し、1年を経てようやく臨川小の仲間になれた気持ちもしています。失敗や勘違いをしてお迷惑やおかけしたことを存じますが、これまで副校長という重責を担うことができたのも、教職員の協力はもとより、保護者・地域の皆様の温かいご支援があったればこそと、春の初めに感じ入るこの頃です。

多くのことを親切に教えてくださった皆様本当にありがとうございました。いただいた真心の尊さを忘れず、明日も子供たちのために尽力していきます。